

資料提供	
平成28年10月31日	
担当 (担当者)	水産試験場 (太田)
電話	0859-45-4500

2016年(平成28年)漁期 沖合底びき網におけるズワイガニの見通し

解禁直後(鳥取沖・隠岐北西沖・出雲沖)

松葉がに…資源尾数は平年(直近3カ年平均)並

※前年より小型主体のため、漁獲量は前年を下回る見込み

若松葉…資源尾数は平年を上回る

※前年と同様なサイズのため、漁獲量は前年並～下回る見込み

親がに(雌)…資源尾数は平年を上回る

※前年と同様なサイズのため、漁獲量は前年を上回る見込み

漁期全般:漁獲量は雄ガニが減少するものの、雌ガニが増加するため前年並と見通す。

解禁直後の見通しの根拠となった情報

調査船「第一鳥取丸」による調査結果 10月3日～26日にかけて、山陰沖の水深184m～428mの海域において、合計26の調査点で着底トロールによる漁期前調査を行いました(図1)。調査海域内における漁獲対象となるズワイガニの推定資源尾数(単位=万尾)は表1のようになりました。

表1 調査海域におけるズワイガニの推定資源尾数(単位=万尾)

区分	2013年	2014年	2015年	2016年	前年比	平年: 2013-15平均	平年比
松葉がに(甲幅9.5cm以上)	63.2	53.2	38.5	51.5	134%	51.6	100%
若松葉(甲幅10.5cm以上)	188.9	133.8	423.6	345.6	82%	248.8	139%
親がに(くろこ)	210.7	174.5	198.8	230.9	116%	194.7	119%

※くろこ:漁獲対象となる茶黒色や黒紫色をした卵を持ったメスガニ

松葉がに:出雲沖で増加し、推定資源尾数は前年比134%、平年比100%となりました(表1、図2左)。甲幅9.5～12cmの小～中型個体が主体であり、前年に比べ甲幅12cm以上の大型個体が少ない傾向となりました(図3、4)。

若松葉:出雲沖で増加したものの、隠岐北西沖で減少したため、推定資源尾数は前年比82%、平年比139%となりました(表1、図2中央)。甲幅10～12cm台の小～中型個体が主体となり、前年に比べ甲幅12cm以上の大型個体が多い傾向となりました(図3、4)。

親がに:出雲沖、鳥取沖で減少したものの、隠岐北西沖で増加し、推定資源量は前年比116%、平年比119%となりました(表1、図2右)。甲幅7～8cm台の小～中型個体が主体となりました(図3)。また、来漁期に漁獲対象となるあかこ(初産卵個体)が多く採集されました。

漁期全般の見通しの根拠となった情報

- (1) 鳥取県の沖合底びき漁業による漁獲量の推移 本県のズワイガニ漁獲量は2004年(1,587ト)まで増加しましたが、その後は減少～横ばいで推移しています(図4)。2015年漁期の漁獲量は松葉がに248ト、若松葉116ト、親がに560ト、合計925トで、前年(927ト)及び平年(987ト)を下回りました。
- (2) 水研調査(調査月:5-6月): 国立研究開発法人水産研究・教育機構は、日本海A海域(富山県以西)における2016年漁期当初のズワイガニ資源量について、カ

タガニ（松葉がに）、ミズガニ（若松葉）は前年を下回る、メスガニ（親がに）は前年を上回ると推定しています（図 5-6）。

- (3) **まとめ** 第一鳥取丸の調査結果から調査対象海域では、雌の資源は維持されています。成熟した雄（松葉がに）の資源は、今回の調査では採取尾数は多かったものの、甲幅組成や、長期的な漁獲量の変動、広域の試験調査結果を考慮すると、漁獲量は減少すると見通します。また、漁期全般のズワイガニの漁獲量は、鳥取県沖合底曳網漁業協会が、今漁期から新たに 11 月に 2 日以上のお漁日を設けるなど資源管理の強化を行っているため、実際の親がにの漁獲量は調査結果ほど増加しないと考えられるため、前年並と見通しています。

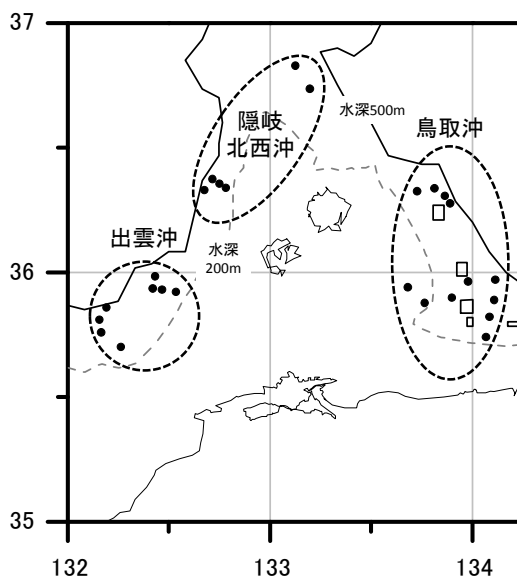
今後の資源状況

甲幅 10cm 以下のオスの未成体ガニが非常に多く、また甲幅 6~7cm のメスの未成体ガニも多いことから、これらのガニが順調に成長すれば来年漁期から漁獲量が上向くものと考えられます。このため、未成体ガニが多量に入網する海域（隠岐西方の水深 250m 以浅）での操業自粛や、小型ガニの再放流に加え、ズワイガニ漁期外での改良網（小型のカレイ類、ズワイガニを逃がすことが出来る網）の使用頻度の向上等により、資源保護に努める必要があります。

ホームページ 本報告は水産試験場ホームページに掲載しています。トップページの「調査研究」からアクセスできます。

URL : <https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1037681/2016kani.pdf>

図 1 試験操業位置（図中黒丸が操業位置）



その他

前漁期（2015 年漁期）から「とっとり松葉がに」のうち、大きさ・品質・型とも最上級の松葉がにをトップブランド「特選とっとり松葉がに五輝星」として販売を開始しました。

（五輝星の基準）

大きさ	甲幅 13.5cm 以上
形状	脚が全てそろっているもの
重さ	1.2kg 以上
色合い	鮮やかな色合い
身入り	身が詰まっていること

前漁期は約 50 万枚水揚げされた松葉がにの中から、174 枚（平均 2.8 万円/枚）が五輝星に選定されました。今漁期は、本調査結果から大型の松葉がにが少ないことが予測されており、前漁期より五輝星はレアな存在になりそうです。

図2 年別海域別の資源尾数 (2013-2016年：平年は2013-15年平均値)

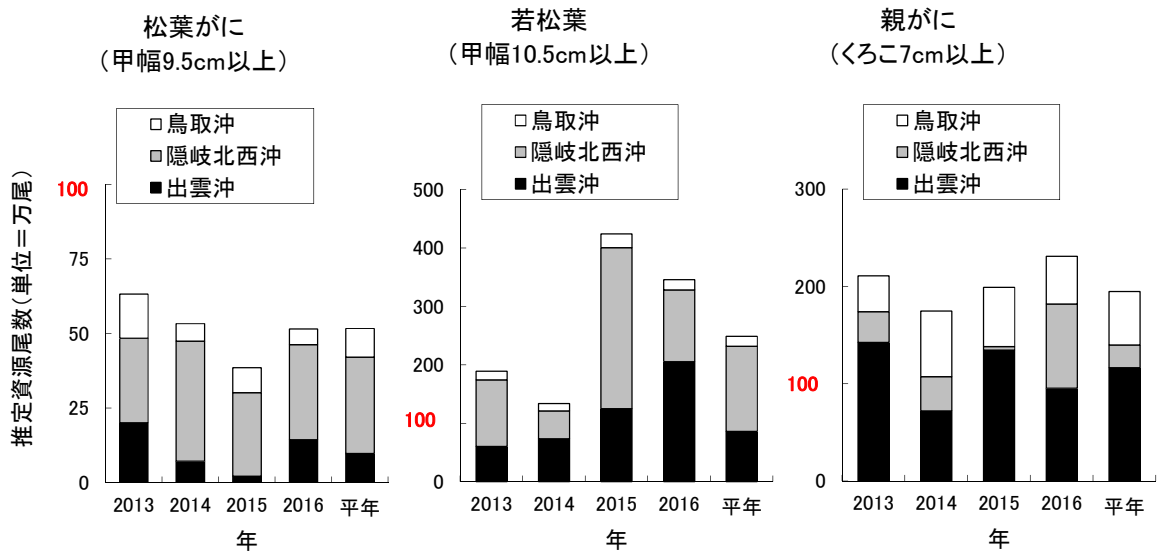


図3 トロール網による調査海域全域におけるズワイガニ甲幅組成の推移 (2013-2016年)

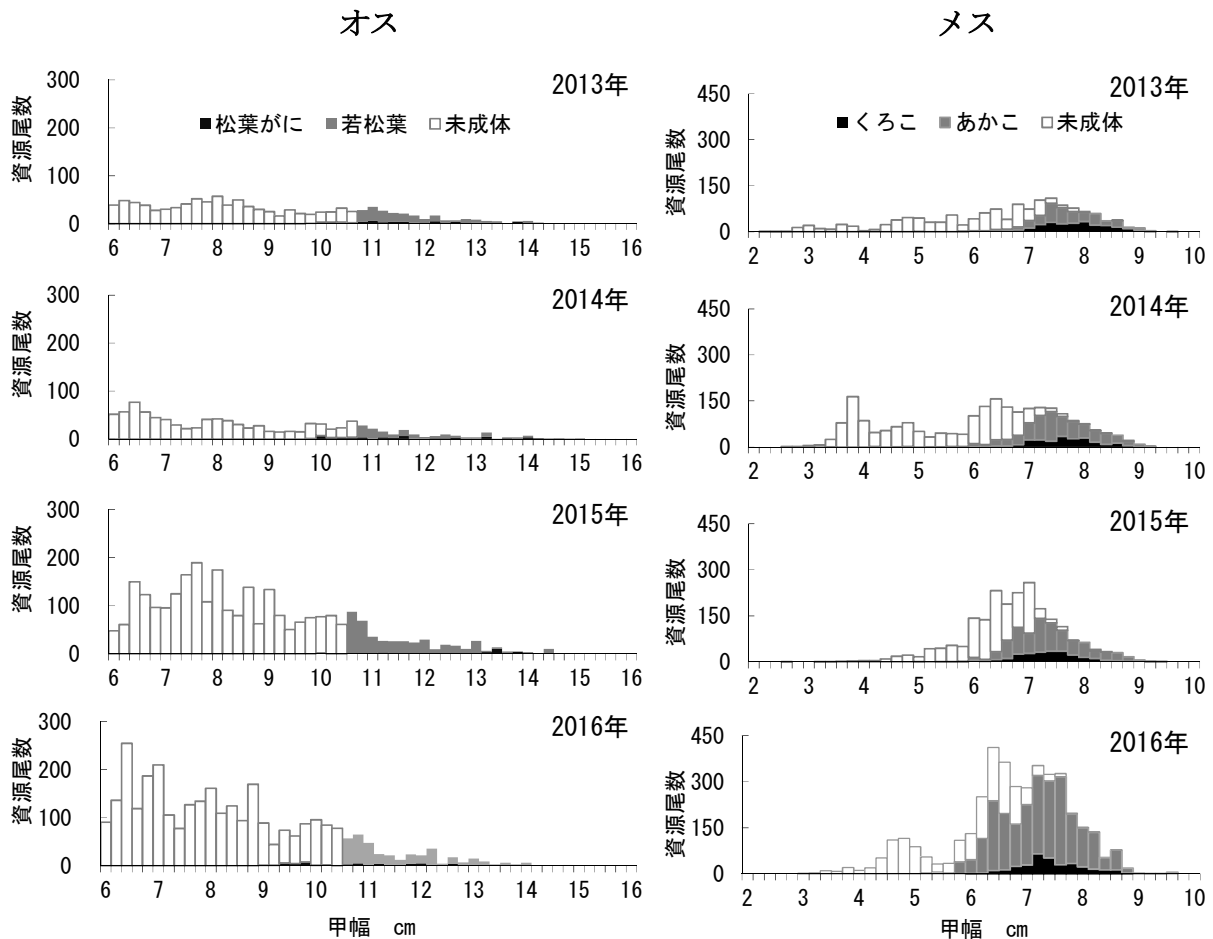


図4 トロール網による調査海域全域における漁獲物サイズの雄ズワイガニ甲幅組成の比較 (2015,2016年)

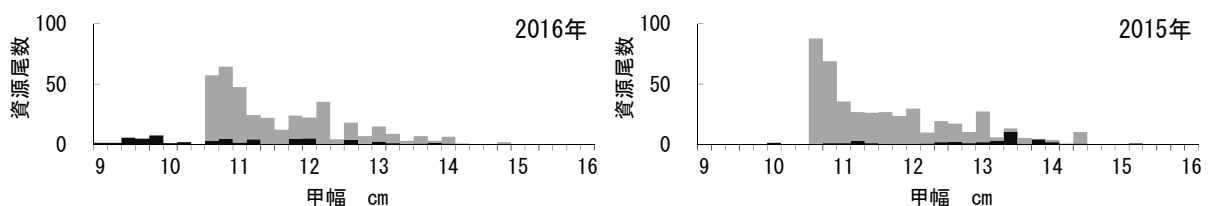


図5 鳥取県におけるズワイガニの漁獲量（漁期年：11月6日～翌年3月20日）

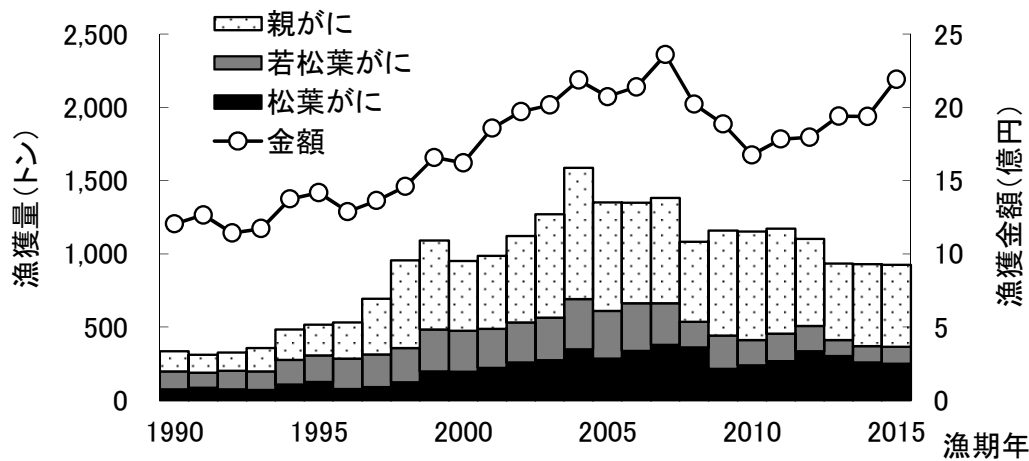


図6 A海域（富山県以西）におけるズワイガニ雄の資源量

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所資料

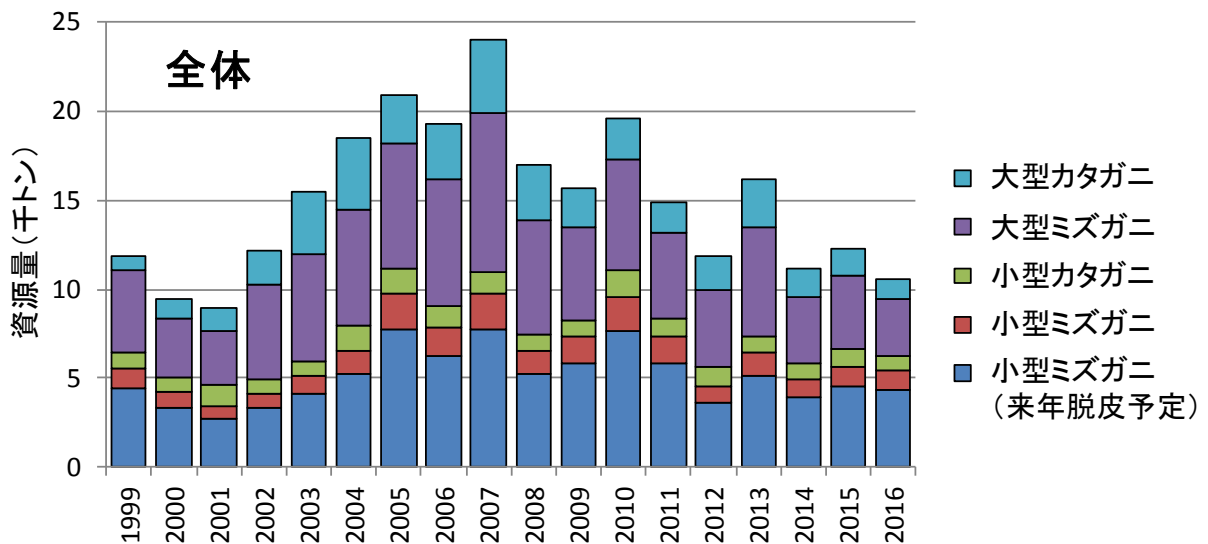


図7 A海域（富山県以西）におけるズワイガニ雌の資源量

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所資料

